

2026年度教学IRを活用した教学改善の取り組みの報告 (2025年度 授業実施方法アンケート)

教学マネジメント推進室 教学マネジメント部門
教学IR・タスクフォース

概要

本学では、全科目の授業実施方法を把握するため、2021年度より定期的に「授業実施方法アンケート」を実施している。授業実施方法の把握が必要となった背景には、新型コロナウイルスの急激な拡大があった。2020年度に新型コロナウイルスの感染拡大により、それ以前の教室で実施される対面授業が困難となり、急遽これへの対応としてオンラインを活用した、リアルタイム双方向型やオンデマンド型など、新たな授業実施方法が取り入れられることとなった。翌年2021年度の1期には「半数登校」を取り入れることで徐々に対面による授業を再開させ、2期には名駅サテライトキャンパスの開校により、感染防止対策を講じながら「全面対面」を基本とした授業実施が可能となった。しかし、感染の拡大や沈静化など時々に変容する状況への対応や、二つのキャンパスで授業が開講されるための学生の授業参加方法の多様化に対応するため、引き続きオンラインを活用した実施方法も併用され、本学の授業実施方法が多岐にわたるようになった。そこで、コロナ禍における授業実施方法の実態把握と、翌年度の授業方針を検討するために有用なデータの収集を目的とし、2021年度1期より授業実施方法アンケートが実施されることとなった。

2021年度と2022年度は1期末と2期末の年2回の授業実施方法アンケートを行ったが、2023年度からは、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へと移行し、さらに2キャンパスに分かれた授業運営が定着したことを受け、年度末のみにアンケートを実施することとした。以後、アンケートの実施は継続して毎年度末に実施されている。

なお、この取り組みは文科省令和2年7月27日付文書で「大学等として、どの授業科目が遠隔授業等で実施されているかなど、個々の授業の実施状況について把握していること」に対応するものである。

教学IR(授業実施方法アンケート)を活用した取り組み

▶アンケート実施年度における授業実施状況の把握と検証、および次年度の大学授業実施方針検討のための資料提供

- ・当該年度において各キャンパスで開講されている科目の授業実施方法を検証し、次年度の大学授業実施方針検討の際の参考資料とする
- ・当該年度においてオンライン受講を必要とする学生を受け入れている科目数を検証し、次年度のオンライン受講申請条件の見直しの参考資料とする

▶各部署における次年度時間割作成のための資料提供

- ・当該年度に各キャンパスで開講されている科目が実際に運営された授業実施方法を検証し、次年度の時間割作成の際にキャンパス間の移動困難を理由に対面授業の受講が不可とならないよう、各キャンパスで開講される科目の開講講時や開講キャンパスを決定する

2025年度 授業実施方法アンケート結果報告

【2025年度授業実施方法アンケート】

- ▶調査対象:全教員(非常勤講師含む)
- ▶実施期間:2025年12月8日(月)～2025年1月19日(月)
- ▶実施方法:ポータルにて、選択式回答
- ▶回答数:1290/1651
- ▶回答率: 78.1%(参考:2024年度2期回収率 79.6%、2023年度2期回収率 79.4%)
- ▶質問項目と回答選択肢

<質問1> 対象期間における2期の授業実施方法についてお答えください。

- 1-A. 毎回の授業を教室で対面により行い、オンラインで受講する学生はいなかった(全員が対面で受講)
- 1-B. 毎回の授業を教室で対面により行ったが、オンラインで受講する学生がいた(ハイフレックス型・オンデマンド型)
- 1-C. 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行い、対面授業の時にオンラインで受講する学生はいなかった(全員が対面で受講)
- 1-D. 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行ったが、対面授業の時にオンラインで受講する学生がいた(ハイフレックス型・オンデマンド型)
- 1-E. 該当期間の授業回の半数以上をオンラインにより行った(遠隔授業)
- 1-F. 毎回の授業をオンラインにより行った(遠隔授業)⇒<質問2>へのご回答をお願いします。
- 1-G. 週間授業を実施していない(不開講、集中講義、卒業論文、インターンシップ、実習)
- 1-H. その他(具体的にご記入ください)

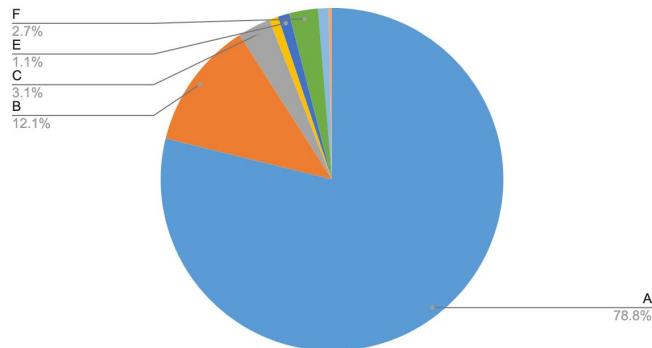
<質問2> 前の質問で1-Fと回答された場合にお尋ねいたします。

- 2-A. 毎回のオンライン授業を、リアルタイム双方向型で行った
- 2-B. 毎回のオンライン授業を、オンデマンド型で行った
- 2-C. 毎回のオンライン授業を、リアルタイム双方向型とオンデマンド型を取り混ぜて行った

2025年度アンケート結果

2025年度は、授業を対面で実施している科目は94.9%（全回の授業を対面で実施した科目と対面で実施しているもののオンライン受講の学生用にハイフレックス対応をした科目の合計）であり、全面対面実施とする大学の基本方針が実現されているということが確認できる。2026年度においても、引き続き、全面対面授業を基本方針とすることに支障はない考えることができる。

2025年度2期授業実施方法



<質問1>

対象期間における2期の授業実施方法についてお答えください

1-A. 毎回の授業を教室で対面により行い、オンラインで受講する学生はいなかった（全員が対面で受講）

78.8%

1-B. 毎回の授業を教室で対面により行ったが、オンラインで受講する学生がいた（ハイフレックス型・オンデマンド型）**12.1%**

1-C. 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行い、対面授業の時にオンラインで受講する学生はいなかった（全員が対面で受講）**3.1%**

1-D. 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行ったが、対面授業の時にオンラインで受講する学生がいた（ハイフレックス型・オンデマンド型）**0.9%**

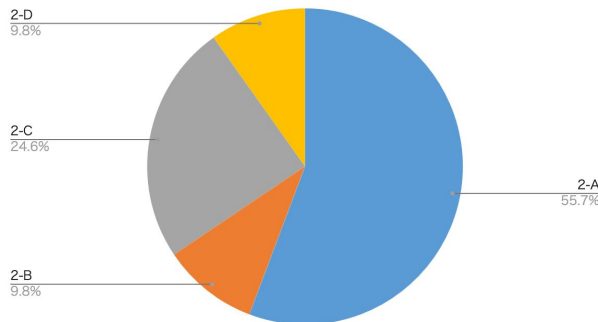
1-E. 該当期間の授業回の半数以上をオンラインにより行った（遠隔授業）**1.1%**

1-F. 毎回の授業をオンラインにより行った（遠隔授業）⇒<質問2>へ **2.7%**

1-G. 週間授業を実施していない（不開講、集中講義、卒業論文、インターンシップ、実習）**1.0%**

1-H. その他（具体的にご記入ください）**0.3%**

2025年度2期オンライン授業実施方法



<質問2> 前の質問で1-Fと回答された場合にお尋ねいたします。

2-A. 毎回のオンライン授業を、リアルタイム双方向型で行った **55.7%**

2-B. 毎回のオンライン授業を、オンデマンド型で行った **9.8%**

2-C. 毎回のオンライン授業を、リアルタイム双方向型とオンデマンド型を取り混ぜて行った **24.6%**

2-D. その他（具体的にご記入ください）**9.8%**

2021年度～2025年度アンケート結果の比較検証

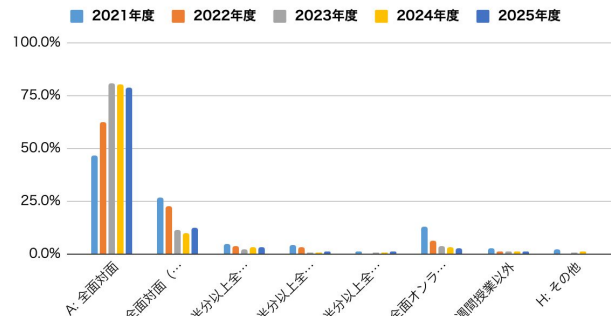
授業実施方法（質問項目別）		2021年度2期		2022年度2期		2023年度		2024年度		2025年度	
		回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率
A	毎回の授業を教室で対面により行い、オンラインで受講する学生はなかった（全員が対面で受講）	814	46.4%	874	62.4%	1130	80.5%	1077	80.2%	1017	78.8%
B	毎回の授業を教室で対面により行ったが、オンラインで受講している学生がいた（ハイフレックス型）	463	26.4%	315	22.5%	157	11.2%	134	10.0%	156	12.1%
C	該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行い、対面授業の時にオンラインで受講する学生はなかった（全員が対面で受講）	80	4.6%	52	3.7%	31	2.2%	44	3.3%	40	3.1%
D	該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行ったが、対面授業の時にオンラインで受講している学生がいた（ハイフレックス型）	70	4.0%	47	3.4%	5	0.4%	5	0.4%	11	0.9%
E	該当期間の授業回の半数以上をオンラインにより行った（遠隔授業）	20	1.1%	4	0.3%	5	0.4%	7	0.5%	14	1.1%
F	毎回の授業をオンラインにより行った（遠隔授業）	225	12.8%	88	6.3%	55	3.9%	42	3.1%	35	2.7%
G	通開授業を実施していない（不開講、集中講義、卒業論文、インターンシップ、実習）	48	2.7%	18	1.3%	12	0.9%	16	1.2%	13	1.0%
H	その他（具体的に記入ください）	34	1.9%	2	0.1%	8	0.5%	18	1.3%	4	0.3%
総計		1754	100.0%	1400	100.0%	1403	100.0%	1343	100.0%	1,290	100.0%

授業実施方法（種別）		2021年度2期		2022年度2期		2023年度		2024年度		2025年度	
		回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率	回答数 (コマ数)	回答率
対面実施 (全学生が 対面で受 講)	A 毎回の授業を教室で対面により行い、オンラインで受講する学生はなかった	894	51.0%	926	66.1%	1161	82.7%	1121	83.6%	1057	82.0%
	C 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行い、対面授業の時にオンラインで受講する学生はなかった										
ハイフレ ックス型	B 毎回の授業を教室で対面により行ったが、オンラインで受講している学生がいた	533	30.4%	362	25.9%	162	11.6%	139	10.3%	167	12.9%
	D 該当期間の授業回の半数以上を教室で対面により行ったが、対面授業の時にオンラインで受講している学生がいた										
遠隔授業	E 該当期間の授業回の半数以上をオンラインにより行った	245	14.0%	92	6.6%	60	4.3%	49	3.6%	49	3.8%
	F 毎回の授業をオンラインにより行った										
その他	G 通開授業を実施していない	82	4.7%	20	1.4%	20	1.4%	34	2.5%	17	1.3%
	H その他										
合計		1754	100.0%	1400	100.0%	1403	100.0%	1343	100.0%	1290	100.0%

2025年度のアンケート結果を、過去の結果と比較検証したところ、以下の点が確認できる。

授業を対面で実施している科目（全回の授業を対面で実施した科目と対面で実施しているもののオンライン受講の学生用にハイフレックス対応をした科目）の割合は着実に増加しており、全面対面実施という大学の基本方針が実現されていることが確認できる。また全面オンライン実施の授業（遠隔授業）については、近年その割合にあまり変化は見られず、全学部生を対象とした科目（受講生が2キャンパスに分散することが避けられない科目）に限定されていると考えることができる。また、2キャンパスによる授業運営も5年目となり、各学科・センターにおいて学生が対面参加できるよう時間割調整ができていることも要因の一つと考えることができる。これにより、新型コロナウイルスによる全面オンライン授業実施から全面対面授業実施方針への移行がほぼ完了し、授業実施方法が定着していることが伺える。一方、2025年度を前年までの結果と比較すると、オンラインで受講する学生数の微増が見られる。合理的配慮に関わる対応との関係も含め、授業実施方法の詳細について、学修者の視点を考慮にいれつつ、今後も推移を見守っていく必要がある。

2021年度～2025年度の授業実施方法比較



2021年度～2025年度の授業実施方法比較/種別

